

## 自律型無人探査機(AUV)利用実証事業の公募結果のお知らせ

内閣府総合海洋政策推進事務局

## 1. 事業の概要

令和5年12月に総合海洋政策本部で決定された「自律型無人探査機(AUV)の社会実装に向けた戦略」では2030年までに我が国のAUV産業が育成され、海外展開まで可能となるよう、国主導の下で官民が連携して取り組むことを示しています。内閣府総合海洋政策推進事務局では、その取組の一環としてAUVの利用実証事業を行うこととしました。本事業では、新たにAUVの利用が期待される現場においてAUV等を使用して海域での実証試験を行うことで、AUVの利用による効果を示すとともに利用時に生じる課題を抽出し、2030年までの事業化につなげることを目指しています。

## 2. 実証試験公募

内閣府総合海洋政策推進事務局ではAUV利用実証試験の公募を行い、有識者による審査を経て、11件の応募から下記4件を選定しました。

名称	代表実施者	備考
AUVを用いた水中インフラ構造物の3次元的な把握および評価	株式会社FullDepth	「みちびき」連携案件 <sup>※1</sup>
AUVを用いた浮体式洋上風力発電施設の点検を実現するための実証試験	いであ株式会社	
水空合体ドローンを用いた遠隔船底点検	KDDIスマートドローン株式会社	
洋上風力発電設備の保守点検への活用を目指したAUVの利用	コスモエコパワー株式会社	FS案件 <sup>※2</sup>

※1:準天頂衛星システム「みちびき」を活用する実証試験

※2:将来の可能性を検討する目的で実施する小規模試験

審査では「AUVを利用し認知度を上げること」が重要視されました。また、市場ニーズを的確に捉えた事業化に向けた具体的なビジョンが描かれ、実証試験の結果を確実に評価できる提案であること等が評価のポイントとなりました。審査委員からは次のようなコメントが示されました。

- 予想を上回る多数の応募があり、内容も多岐にわたっている。技術力の高さ、着眼点、適格性、アイデアの斬新さ、志の高さ、熱量の大きさに感銘を受けた。
- わが国の潜在力の高さを改めて実感するとともに、将来の実装や産業化に向け期待している。
- 今後もこういった実証・企画を継続できれば、技術を持つ多くの方が活躍する場ができる。